

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 16 日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|-------------|
| 事業所番号 | 2170101436 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人さわやか福祉ネットワークぎふ | | |
| 事業所名 | グループホーム柳ヶ瀬 | | |
| 所在地 | 岐阜市金町4丁目28番地 (電話) 058-267-1625 | | |
| 評価機関名 | NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成20年9月9日 | 評価確定日 | 平成20年10月20日 |

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の繁華街に位置した開設8年目のホームである。利用者は、恵まれた利便性を享受し、地域とふれ合いながら、楽しく穏やかな暮らしを営んでいる。それらを支える開設当初からの管理者は、ターミナルケアの先駆者として関係者の信頼と高い評価を得ている。職員も管理者の熱意と思いを共有しており、そのひたむきな心情は利用者・家族にも伝わっている。管理者・職員は、これから確実に重度化し、機能が低下していく利用者へ寄り添いながらケアの質を高め、自らもステップアップしようとする意気込みが感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

| | | |
|------|---|--|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回評価の改善課題であった家族等意見の反映では、アンケートを取ることで、家族の率直な気持ちを把握できるようになった。重度化・終末期の対応については、関係者との緊密な連携をさらに強化した体制が整えられた。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） |
| | ② | 評価の意義を全職員で話し合い、グループホームの機能・役割りを常に確認しあっている。年々、利用者の機能低下が顕著になる中で、ケアのあり方を振り返り、サービスの質の向上に取り組んでいる。 |
| 重点項目 | ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は、地区の民生委員、老人会副会長、市・地域包括センター職員、家族代表が出席し、開催されている。終末期の対応について関心が高く、常に議題になっている。運営報告やケアの内容について意見交換が行われ、ホームの運営やケアの改善に反映させている。 |
| | ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族の意見等は、家族の訪問時や年2回の家族会で、意見を出しやすい雰囲気をつくり、話し合いの場を設けている。さらに今年度からは、家族アンケートを取ることになり、多くの意見が寄せられている。利用者の表情が改善されないとの意見もあり、家族と話し合いながら改善に努めている。 |
| 重点項目 | ⑤ | 日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） |
| | ⑥ | 地域の公民館活動、小学校の運動会、敬老会等に参加し交流している。近隣の世帯には、高齢独居者が多く存在し、互いに声を掛け励まし合っている。音楽療法士、ハーモニカ・マンドリンのボランティア、傾聴ボランティアが定期的に訪れるなど、地域とふれあう機会が多い。 |

【情報提供票より】 (平成 20 年 8 月 15 日 事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-----------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成 12 年 7 月 3 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 8 人 |
| 職員数 | 10 人 | 常勤 1 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 | 6.7 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-----|-------|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 2 階建ての | 1 ~ | 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|-----------------|------------|------------|-----------|
| 家賃(平均月額) | 38,000 円 | その他の経費(月額) | 14,000~ 円 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 無 | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 300 円 |
| | 夕食 | 300 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 15 日 現在)

| | | | |
|-------|---------|---------|----------|
| 利用者人数 | 7 名 | 男性 0 名 | 女性 7 名 |
| 要介護1 | 0 名 | 要介護2 | 3 名 |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 1 名 |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 82 歳 | 最低 67 歳 | 最高 102 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------|
| 協力医療機関名 | 小笠原内科医院 長尾歯科医院 |
|---------|----------------|

2. 評価結果 (詳細)

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域の中で、その人らしく暮らしていくために、「出会い、ふれあい、学びあい」を理念に掲げ、利用者に寄り添い、安心と満足のある生活を支えている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ホームの理念が家族や地域の来訪者などに理解してもらえるよう、玄関入り口に掲示してある。職員は、ミーティングの機会に確認しながら、日々の実践に取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の公民館活動、運動会、敬老会に積極的に参加している。今年度からは、老人会との交流が始まり、老人会役員とホームとの交流が行われている。近隣の人や商店とは顔なじみの関係があり、挨拶や声をかけ合っている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価および外部評価の意義は全職員で理解・共有し、サービスの改善に取り組んでいる。外部評価票は玄関に備え付け、家族にも見てもらうようにしている。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|----------|--|--|--------------------------|-----------------------------------|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、地区民生委員・老人会副会長・行政関係者・家族代表が参加し、2ヶ月ごとに開催されている。特に、家族代表の質問にはその都度、関係参加者から回答されている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 利用者の状況報告を定期的に行っている。生活保護受給者、成年後見制度の利用等で、市関係課に相談したり、指導を受けている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の訪問時に、利用者の暮らし振りを報告している。居間には、訪問した家族に生活ぶりを見てもらえるように写真集が置いてある。また、利用者の近況を毎月送付する書類の一角にある便りに書いて報告している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族アンケートを実施した結果、家族からは意見や相談が多く寄せられている。利用者の一方向的思い込みにどう対応するのか、スリッパ履きは危ないのではないかな等の意見があり、それぞれのケース毎に改善や対応策を取っている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 開設当初からの職員が多く、利用者との馴染みの関係が続いている。新規採用職員には、利用者・家族との信頼関係を築くことの重要性を指導している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員には、外部の研修情報を提供し、勤務時間を調整して研修に参加できるよう配慮している。内部での会議やミーティングにおいても、利用者本位のケア、気づきなどについて、学習の機会を設けている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 開設当初から続いていた同業者との交流は、双方の事情により中断している。 | ○ | 管理者の友人が運営する同業者が、隣接市に在り、交流に向けて検討しているので、その実現に期待したい。 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前の生活リズムをくずさないように心がけ、家族の協力を得ながら馴染んでもらうようにしている。また、独居生活から直接入居するケースも多く、抵抗感の強い利用者には、時間を十分かけることで、不安の解消に努めている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者の重度化が進んでいるので、身体的な活動は少なくなっている。ゆっくり時間を取って、昔話を聞き、喜怒哀楽を共にしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 言葉で表現できない人が多いので、表情やしぐさから思いや意向を汲み取っている。足踏みをはじめたら排泄の要求、作り話を始めたら延々と止まらない人もいるので、本人の意向に沿うように支援している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人・家族の意向を踏まえ、アセスメントしたものをたたき台にし、全職員のミーティングで利用者主体のケアを十分話し合い、介護計画に反映させている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月毎の定期見直しであるが、状態の変化があれば、速やかに家族と連絡を取り、新たな介護計画を作成し直している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 24時間の医療連携体制があり、看取りを支援している。短期利用共同生活介護、介護予防認知症対応型共同生活介護の機能もあり、自宅で暮らす認知症の利用者に通いや泊まりのサービスで支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 在宅医療を中心に展開している内科医院が、かかりつけ医であり、24時間の往診が可能な体制である。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 看取りはいままで4事例あり、医師・看護師・家族・ホームとの協力が文書化されている。職員の精神的、肉体的負担はあるものの、協力体制がしっかり整備されているので過大なストレスにはなっていない。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | ホームの方針でオムツを付けないケアを実践しており、トイレ誘導の言葉かけに細心の配慮をしている。毎朝のミーティングで、プライバシーを損ねないように配慮した対応を確認し合い、日々、意識して取り組んでいる。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床時間や就寝時間は、本人の自由であり、昼寝をとり人も多く見られた。重度化が進んでおり、屋内で会話をして過ごすことが多くなっている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 年々、身体機能が低下しており、食事作りに参加する人はいなくなっているが、ねぎ、葉類、えんどう、そら豆などの軽い下準備を手伝っている。食卓は多彩な盛り付けとともに、楽しい雰囲気の中かで、職員も一緒に食べている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は1日おきに支援しているが、本人の希望を優先させている。入浴しない人には足浴を楽しんでもらっている。足浴や入浴の後は、太ももから足首にかけて、血行を良くする電動マッサージ器が使われている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 1人の利用者が、モップ掛けを担っている。月2回の音楽療法士の来訪、2ヶ月に1回のハーモニカ・マンドリン演奏ボランティア、傾聴ボランティアの来訪が楽しみとなっている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 自力歩行の人、車椅子の人と順番を決め、アーケード街の散歩に出掛けている。途中、花屋で季節の花を觀賞したり、神社の参拝、喫茶や買い物も行程に組み入れ支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は鍵を掛けずに見守りで対応している。外出する人がいる場合は、後ろからさりげなく見守り、タイミングを図って声を掛け帰宅している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 避難訓練は、年1回、全員参加で実施している。利用者一人ひとりに避難用の頭巾及びリックサックを用意し、水などを入れて玄関に常備している。近隣には、災害時の協力を要請している。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分量は、記録して全職員が確認でき、利用者の健康を常に意識している。栄養バランスに配慮し、保健所の管理栄養士の専門的なアドバイスを受けている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 民家改修型で構造的な制約はあるものの、複雑な飾りつけはなく、落ち着いた癒しの空間となっている。通常は適度な広さのリビングに集まり、会話、洗濯たたみ、テレビをみたり、コーヒーを飲むなど居心地よく過ごしている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には馴染みの小物類、写真などが持ち込まれている。また、位牌や自分で作った作品も飾られ、ほど良い生活空間ができています。 | | |

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。